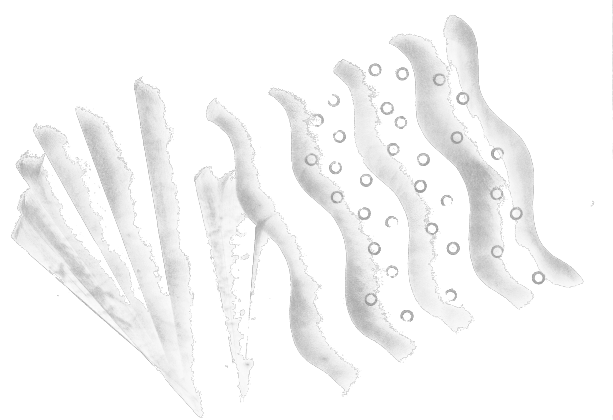


## 第三話

### ウドンゲの花



ウドンゲ（優曇華）の花が咲くと身内の人が亡くなるって言われているよ。

どこにでも咲く花でね、風呂場にも咲くし、野菜の畑にも咲くし、しまっていた着物に咲くこともあるんだ。

きれいなもんだよ。絹糸よりも細くて、白っぽいような黄色いっぽいような、細かい細かい花。それがいっぱい、あたり一面に咲くのね。

わたしの母が腹膜<sup>ふくまく</sup>を病んでいた時ね、朝に縁側を拭<sup>ふ</sup>くんで、風呂場さお湯を汲みにいったの。そしたら、風呂の水の上にウドンゲの花がいっぱい咲いていたの。小さい花が黄色に光って、一面

に水の上に咲いていたんだよ。

「これ、自分ばり見ていたんでは本当にされねえ」

って思ったから、おばあさんと呼んできていつしよに見たの。おばあさんも、

「ああ、うどんげの花だ。なにか悪いことがないといいが」

って言いながら、じっと見ていたけども、いつのまにか花が消えていったんだよ。

しばらくして、母は死んだの。

昔は、今のような蛍光灯でないから、電球の上に、丸くて白い

笠がかかっていたのね。

わたしの父が死んだときには、その電球の笠にきれいなウドンゲの花がいっぱい咲いたんだよ。飾りのようにきれいでね。

着物の上に咲いたこともあるって聞いたよ。そのうウドンゲの花はだれにでも見えるの。

おじいさんが死んだときは、畑のシソの葉の裏に咲いたって聞いたね。

ふしぎだけど、ほんとうの話なんだよ。